

# が ん ば

島三小育友会報  
発 行  
広 報 部

【第87号】



## 七夕まつり

夜空に輝くあの星は……  
お母さん星、お父さん星、それとも願い  
星、きつとかなえてくださいネ!!

## —美しいことば—

教頭 平野 昭 一



どうぞ」八人となっています。  
これらのことばは、特別の修飾  
語ではなく、日常生活に、だれで  
も数多く使っているあいさつ語で  
す。

私は、この本を読んで、二つの  
ことを深く教えられました。

第一は、現在の世の中は、激動  
しているといわれていますが、「美  
しいことば」は、何かふだんわれ  
われがどこかへ置き忘れていたも  
のへ、ハツと目を向けさせるよう  
な気がすることです。しかも、最  
高に「美しいことば」は、いずれも  
日常のあいさつ語であることを。

第二は、前に書いた「美しいこ  
とば」の中で、「ありがとう」のほ  
うが、「ありがとう」よりも「よ  
りも、また「おはよう」ございます」  
の方が、「おはよう」よりも美しい  
と感じられている点です。

つまり、「美しい」と思われてい  
ることばも、単なる単語やことば  
自体の問題であるよりも、話す人  
の内面的な態度に問題があると考  
えられる点です。

美しいことばを生かし、明るい  
社会を作りましょう。

「美しいことば」とは、どんな  
ことばのことでしょう。NHKで  
は、「美しいことば」という報告書  
を出したことがあります。この報  
告書は、ことばに積極的な関心を  
もつ全国各地の約五百八十人の人  
びとに照会し、その回答を集計分  
析しているものです。  
「美しいことば」としてあげて  
いるものは、  
○「ありがとう」が第一位で十七  
人  
○「さようなら」が第二位で十五  
人  
○「はい」が第三位で十二人  
○「おはようございます」が第四  
位で十一人  
○「わたくし」が第五位で十人  
以下「さようなら、あなた」九人、  
「おやすみなさい、すみません、

# テレビゲームについて

先日の学級部会でファミコンについて話合いましたが、色々な意見が出ましたので、各方面からの意見も合せて、皆さんに紹介します。

一、時間を定めてやれば良いと思う。

二、大勢で来て机や部屋の中をかき回すので困る。

三、視力が落ちたので家で禁止したら、他の家でファミコンをやり、目を真っ赤にしてフラフラしながら帰って来た。

四、カセットの貸借をしている。失くせば問題だ。借りて来たカセットを親が返して欲しいと言つて、取りに来ることがある。

五、学校で注意して欲しい。

①長時間しないように  
②カセットの貸借をしないように

六、学校にファミコンを置いて遊べる部屋を作つて欲しい。

七、買ひ与えるべきか迷つてい

る。何か良いことを吸収できる遊びだろうか。

八、親が留守の家で遊んでいるのではないか。全部の家庭がきまりを守るよう指導して欲しい。

九、塾・ソフトボール・サッカーの練習等で毎日忙しいので我が家では、ファミリコン・ピューターをする時間が殆んど無い。

十、我が家では子供に高価な物を安易に買つてやらないことにしている。親が苦勞して働いているところを見せ、又身を以つて体験させるため畑仕事で汗を流させている。だから我が家の子供はファミコンを買つて欲しいと言わない。

他にも健康上のこと、親と口をきかない等の意見も出されました。

現在、ブームのテレビゲームについて、皆さんはどう思いま

すか。

(M)

## 昭和61年度

# 生活標語

入選作品(1)

「ハイ!!」と明るい返事が

西八幡 三年 多良 尚子

多良 寿美

あかるい かていは

西八幡 一年 杉元ちかよ

杉元 正治

かくしことせす

何でも話そう 父さん 母さんに

湊 一年 小島けい子

小島 富基

「ありがとう」

素直に言える 優しい心

湊 三年 荒木 聡美

荒木 修

「おはよう」の

言葉がとびかう ぼくの町

湊 六年 河野 充宏

河野 俊文

楽しい事 悲しい事

総てを 話そう 親子の会話

白土桃山 六年 下田 千穂

下田 玄祐

良い事は

進んでしよう 君と僕

白土桃山 五年 中川 敏美

中川 直道

パソコンファミコン ほどほどに

子供は 外で 元気よく

白山 五年 元島 元裕

元島 裕治

前を見て ふさげず

歩こう 右がわを!

白山 五年 本多 奈美

本多 敏憲

あいさつは

きみとぼくとの あいことば

靈南 六年 香田 和信

香田 敏晴

あいさつは あなたと

私の心の 宝もの

靈南 五年 大原 美樹

大原 忠行

悪い事 いやだと

はつきり言う 勇気

中組 四年 奥村 健

奥村 康雄

「はい」「いいえ」

意思表示は 君の心を伝えます

浦田元船津 四年 青木 健一

青木 一輝

小さいごみ 一つひろう心がけ

きれいな町づくり

浦田元船津 六年 細名 和章

細名 義和

思いやる やさしい心で

今日も 楽しく

下川尻 三年 鶴川 サユミ

鶴川よしあき

悪いこと

さそいにのらぬ 持つ勇氣

下川尻 六年 奥村 聡子

奥村 禎久

# 夏休みは食中毒が おこりやすいよ！

第三小校医 河原 弘

子供さん達にとっては待ちに待った夏休み皆さんそれぞれ色々な計画をつくられておられることでしょう。夏休みは、ややもすると不規則な生活におちいり易く、健康を害することが多くみられるようです。

俗に、食当たりといわれ、飲食物をとったあとに、吐き気、嘔吐、腹痛、下痢など、主として急性胃腸炎の症状を起こす病気を「食中毒」といいます。

医学の進歩によって、赤痢、コレラ、腸チフスといった病気は近年減少しましたが、食中毒はかなりみられるようです。

これから、その多発期を迎えますので充分御注意をいただきたいと思えます。

食中毒の原因は多いのですが、次の三グループに分けられます

## 一、細菌性食中毒

これには細菌そのものによって起こる感染型といわれる場合と、細菌がつくり出した毒素によつて起こる毒素型といわれる場合とがあります。

感染型というのは食物中に大量にふえた細菌が、更に体内でふえて急性胃腸炎の症状を示すもので、代表的な菌は、サルモネラ菌と腸炎ビブリオ、その他数種の細菌が原因となります。

毒素型のほうは、菌が食物中でふえている間に毒素がつくり出され、この毒素が吸収されて症状を示す型で、これをおこす菌にはブドウ球菌やボツリヌス菌等があります。

細菌性食中毒は、ボツリヌス中毒を除けば七、九月に多くみられます。

## 二、化学性食中毒

農薬に使われる有機燐製剤、殺虫剤に用いられる砒素化合物、その他、食器類の塗料等に含まれる有害な化合物が飲食物に混入して食中毒をおこすことがあります。

## 三、自然毒による食中毒

動物性のもものではフグ中毒、その他不明の原因でアサリやカキが有毒化し、これを喰べて食中毒を起こすことがある。植物の自然毒では、毒キノコによる食中毒があります。

食中毒の発生は一般に気温との関係が深く、七、九月の暑い季節に多発します。これは、食中毒の原因となる細菌類の繁殖し易い条件が、夏季に多いからです。

嘔吐と下痢が食中毒の共通症状ですが、その他の症状は原因によつて少し異なります。

## 腸炎ビブリオ食中毒

水温の高い海水中に検出され、夏季の近海産の魚貝類（アジ、サバ、タコ、イカ、貝類）から四十〜五十%、これらを調理した包丁、まな板、ふきん等から二十〜三十%発見されます。

この菌に汚染された食べ物をとると数時間から十時間ぐらいで上腹部痛特に「みぞおち」のあたりが強くなると、水様便が数回から十数回あります。発熱、吐き気、嘔吐あり、通常四〜五日で回復します。

## サルモネラ食中毒

ネズミの糞尿に汚染された食品の摂取が原因となる事が多い。魚貝類と加工品、あん入り菓子、肉類、症状は腹痛（へその周り）嘔吐、下痢、発熱、多くは二〜三日程度続きます。

## ブドウ球菌食中毒

食べ物の中でブドウ球菌が繁殖し、そこに産出された毒素を食品と共に食べて発病します。従つて、食べてから発病するまでの時間が短いのが特徴で一〜四時間、多くは三時間ぐらいで発病します。症状は二〜三回の嘔吐と強い上腹部痛、やや遅れて二〜三回の水様便がみられる。発熱は殆んどみられません。半日から一日で回復します。

## 応急手当

◎まず吐かせること。但し食後数時間以上たつて発病したものは吐かせてもむだです。  
◎絶食させるが水分は充分与える。お茶がよい。  
◎薬物療法は、医師の指示を受けること。

## 予防の要点

### 腸炎ビブリオ

この菌が付着した魚貝類を生で喰べると感染します。従つて予防としては七〜九月の魚や貝は加熱して喰べること。どうしても生で喰べたい時は、よく水道水で洗うか、酢を用いて料理することです。料理後の包丁、まな板はよく水洗いして下さい。

### サルモネラ菌

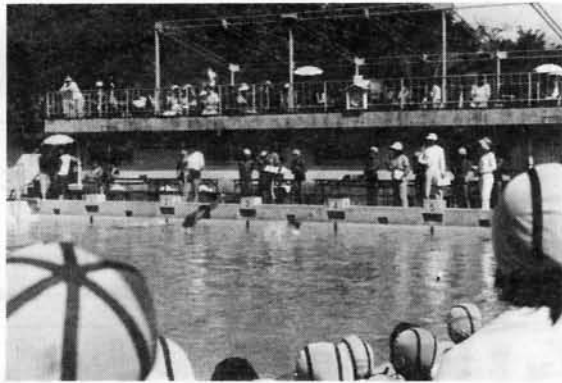
この菌が食品に混入する経路は犬、猫、鶏の糞便に触れたハエ、ゴキブリが食品にとまったり、ネズミが調理場の食品や食器に糞尿をもらしたりした場合が多い。従つて、ネズミ、ハエ、ゴキブリ等が近づけないように食品を格納すること。

### ブドウ球菌

手、指に化膿した傷のある人が調理した場合例えば、にぎりめし、甘く煮た豆類でよく毒素がつくられます。毒素が食品に含まれても味や臭いではわかりません。夏の残りものは捨てることです。

# プール清掃

環境部副部長 藤 田 耕太郎



して、小雨のバラつく生憎の天候でしたが、環境部の皆様、先生方の御協力によりまして無事終えることができました。

一年間という時間は、子供の成長にも目をみはるばかりのすさまじいものがありますが、草木の成長もそれに負けず劣らずのなか／＼立派な成長ぶりでした。

プールを囲ってある金網の間や上から、鬼の居ぬ間のなんとかよろしく枝や幹を侵入させている木を、のこぎりを使って、悪戦苦闘している一方、周辺一帯を足並み揃えて生い茂っている雑草を、お母様方にきれいに刈り取って頂き、約二時間の作業でみちがえる程になりました。

私、この度三小育友会活動初参加にもかかわらず、環境部副部長を仰せつかり、大変とまどっておりますが、何事も経験、勉強と思ひまして、皆様の足手まといにならないよう子供達のため、微力ながらお手伝いさせて頂こうと思っております。どうか宜しくお願い致します。

去る六月十四日、午後一時より、プール周辺の清掃を実施致しました。当日は梅雨入り直後ということもありま

雨は霧雨に変わっていましたが、作業の後の肌に心地よく感じられました。又、女性の天敵であります紫外線も幸いの雨模様で直接には届かなかったようです。

参加して下さった皆様、本当に御苦労様でした。本年の水泳の授業が無事故で、そして楽しく有意義でありますようお願いしております。

## 学級代議員研修会

学級部副部長 諏訪 光世

毎年恒例の学級代議員の研修会を六月十八日に行ないました。

従来は、内・外部の先生方に講演をお願いしてきましたが、本年は私たちの身近で、代議員としてほんの少し先輩の方々にお話し願いました。

学級部会により多くの人に集まって頂き、より盛り上がった部会にするために努力された様子、その成功例や失敗例などの経験談をさせて頂きました。

まず、田中益良先生から学級代議員の心得、より良い学級部会の運営の仕方などの説明がありました。その後、講演で、酒井智好さん、佐々川和子さん、江川七重さん、成瀬博功さんと続きました。

話の内容は、「テレビを見ない日」を決めてその代わりに親子のふれ合いを深め、対話も増えた。

対話により、父親も学校生活に関心を持ち、学級部会に関与していくようになる。

連絡網を作り、親同士の連絡を密にして、本音で話し合える和やかな雰囲気を作る。

こん談には、町内ごとに誘い合わせて出向いてもらい、初めに、

歌を歌うことによりお互いの気分をほぐす。

本音で話し合うのが理想だが、なかなかむずかしい。

代議員は特別に選ばれた人ではなく、たまたまいろいろな事情のもとにひき受けたと自覚し、いつも新鮮な気持ちで取り組む。又、特定な人ばかりでなく、多くの人に経験してもらうことが必要等。



行事、議題の検討など、代議員の努力しなければならぬことがたくさんありますが、実り多い学級部会にするために、皆さんの協力を得ながらがんばりましょう。

# 懐 しい 麦 ご 飯

給食部員 酒 井 富 子

六月二十日、給食試食会に始めて参加させていただきました。給食と言えば、自分達の小学校時代のあの何とも言えない脱脂粉乳の強い臭いのミルクを思い出し、その頃としたり、生活すべてがちがって来てますように、給食も変わったなあ...と思います。

試食会の献立は、魚の南蛮漬うま煮、漬物、麦ごはん、牛乳です。魚の南蛮漬はうす味でおいしかったです。うま煮は子供達が食べやすいように人参、馬鈴薯など小さく切っており、麦ごはんもふんわり炊けていて、なかなかおいしい思いで食べさせていただきました。その後一年生の給

食時間の様子を見学です。子供達は、父兄を意識して何となく照れた様子で、それでもお代わりする子、しぶしぶ食べる子、さまざまです。家庭では、どうしてもわがままして偏食しがちですが、給食は先生や友達と一緒に楽しくいただきます、わが家の末娘も「今日は何か食べれたよ」今日は全部食べてしまったよ」と得意顔で帰ってきます。おかげ様で少しづつ偏食もなおってきてるようです。

最後になりましたが、いつも子供達においしい給食を作って下さる係の方、ありがとうございます。

# 沢 山 食 べ る 子 元 気 な 子

給食部員 近 藤 美 代 子

先月二十日、一年生の父兄を対象に、保健給食部の計画で給食の試食会が開かれました。お忙しい所、多数の御参加ありがとうございました。

献立は、むぎごはん・牛乳・さかなのなんばんづけ・うま煮・たくわんでした。

今では、あまり見られない麦ご飯、私も含めて若いお母様方には、めったに口にできなかつたのでは。子供の食べやすい大きさに切られたうま煮に、いずれも美味しく味付けされています。

子供の試食の様子を見ている

と、おかわりをする子が多く目につきました。

最近では、スパゲッティ、カレー、ハンバーグ等が、食卓には多い様に聞きますが、あこの骨を作る為にも、前に述べたやわらかい物ばかりでなく固い物を...又、繊維、カルシウム不足と言う事で、一日三十種、一週間で百種を取る事が望ましいと専門医の話も聞きました。

これを機に、お子様に、また忘れてはならない御主人に、愛をこめて一工夫してみられてはいかがでしょうか。

## 試 食 会

# 火 お こ し 竹 懐 しい 味

広報部員 尾 上 春 美

初めての広報部、部長さん、副部长さん及び部員の皆様のあたたかい御指導のもとに活動させて頂いております。梅雨の最中、時折り激しく叩きつける雨音に、過ぎし日の懐かしい思い出に触れて見たく、一文を綴りました。

子供の頃の母の思い出...それは、カマドの前で背を丸め、立ちこめる煙にむせながら涙をポロポロ流し、力いっぱい頬をふくらませて、無心に火起し竹を吹いている後姿です。

ガスも電熱もない其の頃の熱源は、専ら枯木や薪で有り、燃えつく迄には



大変な苦勞が有りました。竹の節を抜き、先端に小さな穴をあけただけの簡単な民具だけど、無くてはならない必需品でした。

物があふれる現代と違って、当時は食物にしても極く質素なものでしたが、アツアツの麦ごはん、大きな釜で吹かしたさつまいも、「唐いも」に残り火で焼いた塩イワシを添え、口いっぱい頬ばったものでした。

又、お盆の頃になると思い出されるのは、蒸し饅頭。山から取って来た饅頭の葉でつつみ、真黒にすすけたセイロで、饅頭を沢山蒸し、腹いっぱい食べるよ...と言いが、汗と、煙と、セイロの湯気でクシャクシャになった顔を前掛けて拭いていた姿が忘れられない。

又、小学校の頃の遠足の弁当と言えば、ノリ一枚にやととくるまるボールの様なまん丸いおにぎりに梅干が入り、玉子焼きにゆで玉子、今と言うデザートに夏ミカンを添え、風呂敷につつんでくれた。めったに食べられない御馳走に、嬉しくて前の夜はなかなか寝つかれなかった事を覚えています。

時代の進歩と共に、薪からガスへ、火鉢からストーブへ、井戸・ツルベから水道へ、うちわから冷房へ、又、食物に於てもおふくろの味からママの味へと変って来ましたが、昔も今も子供を思う親心は、子供の健康と成長を願う一生懸命料理を作る母の姿は、いつの時代にもけつして変る事はないでしょう。

又、現代ではなかなか味わえない火起し竹、懐しいおふくろの味を、いつまでも大切にしたいと考えます。

# 楽しい宿泊訓練から

## わらぞうり作り

五年 本 多 功 征

宿泊訓練の一日目には、わらぞうり作りがありました。

ぼくは、おじいさん、おばあさんのわらぞうり作りを見ていたら、案外やさしいと思いました。すると作って見たら、とてもむずかしくて、おばあさんから、「なんべんいったらわかるの」と四回もおこられました。四回も小さくぬっていったからです。でもおこられていくうちに、だんだん上手になっていきました。



やっとできたと思って、持っていたら、「やりなおし」といわれたからがっかりしました。

やりなおしをしていると、もうできて、はいてる人がいました。それで、ぼくも早く作ってはきたいなあと思いましたが。

だいたいできたので持って行ったら、おばあさんがニコッと笑ったので、ぼくはホッとしました。

二つめは、もう作り方がわかったので、一つめよりだいぶはやくできました。そして持って行ったら、「はいダメ」といわれました。ぼくはやりなおしといわれたから、びっくりしました。

それで今度は、ていねいに作って持って行きました。ぼくは、びくびくしながらおばあさんに見せました。おばあさんが、「よくがんばったね」といわれたから、とてもうれしかったです。

ぼくは、自分で作ったわらぞうりをはいてみました。すると、ふだんはいていないから、ちかちかしました。でもうまくできたのがとてもうれしかったです。

## 沢あるき

五年 井 上 智 代

天候にめぐまれた宿泊訓練の二日目、私たちは沢あるきがあった。その日は暑く、川の中に入ったら気持ちよさそうと思つてびた。

いよいよスタートだ。初めのほうは一列にきちんとならんでいたけど、だんだんと列がくずれていった。私は足がぬれないようにいっしょうけんめい石の上を歩いていった。けれど、石がだんだん岩にか



わつてきたので沢の中を歩いて行つた。その時私は、冷たいと思つた。その冷たさは島原では味わえない冷たさだ。

そして上流の方へのぼつていった。岩もだんだん私の背の高さをこえていった。ゆだんをしていると岩からずれ落ちていく。私は一回ずれ落ちたから、もうそのこわさを知っていた。ずれ落ちそうになったら、「ギヤー」とさけんでいたら、後ろの人がおさえてくれ、「だいじょうぶ」といつてくれた。私に勇気をもたせるようになぐさめてくれました。

それから、私はいっしょうけんめい歩いていくと、先頭の方へたどりついた。その時はうれしかったです。

それから私は、時々川の中でころんだりした。やっと土の上を歩いた時は、いままで以上にうれしかったです。そして、友だち二人といっしょにゴールしました。

もう一回、ここにくるときは、今回以上がなりたいと思います。

## 編集後記

### 座右の銘

「がんば」読者の皆さんにお伺いします。生涯から物心つき、善悪の判断ができ、一本立ちし、家族を養い、子供を独立させ、親を見送り、夫婦合和し、静かに人生を全うするに当り、座右において毎日の戒めとする格言(教訓)となる短いことは「座右の銘」をお持ちでしょうか。何をか言わんやで、私も今だ、その魚の目の如き、座右の銘とやらは持ち合わせていません。どうでしょうか。まだお持ちでない方は、これを機に私と共に座右の銘を。

この昨今、新聞紙上に毎日のごとく悲しいニュースが目に入る。なぜ幼い生命を簡単に投げ捨てるのか、近い将来すばらしいことが待っているはずなのに。

子供の目に、親からもらった生命が続く限り、人さまに迷惑をかけず、大望を持って保ち続けることの尊さを教える為にも、苦しさ、悲しみに耐える精神を養うべく、親の今迄生きて来た姿、又これから生きて行く姿を、言葉に語句に示し、教える事の意義を思ひ、がんば読者の皆様にごいかけた次第です。

日本郷土の文化、歴史、人生訓等、後輩、子孫に残すべきことがあれば投稿お願いします。(S・T)